

昭和五十二年十二月三日第三種郵便物認可 毎月十八回一・二・三・五・六・七・の日発行
令和五年十月十五日発行 SSKP 通巻第8243号

<h1>SSKP 脊損ニュース</h1>	<h1>10 月号</h1>	〒152-0034 東京都目黒区 緑が丘2-15-14 村上ビル102 (公社)全国脊髄損傷者連合会 電話(03)6421-4588
----------------------	--------------------	---

(公社)全国脊髄損傷者連合会 ホームページアドレス =<https://www.zensekiren.jp/>



▲リーガホテルゼスト高松

〒760-0025

香川県高松市古新町9-1

TEL 087-822-3555(代)

FAX 087-822-7516

<https://www.rihga-takamatsu.co.jp/>

バリアフリールーム ツイン仕様 1室

素泊まり 1人あたり

¥ 12,000~

1部屋3名まで使用

※曜日、季節、天候によって変わります。

その他、お問い合わせください。

(情報提供 広報部)

〈10月号目次〉

第22回総会 公開講演 I

地方組織どうしの意見交換会 …… 3

投稿記事 アシトド氏のフリートーク

車椅子電車評論家 アシトド松井

…………… 6

連載 続・世界は開いているから仕方がない

村山 哲也 …… 13

すべての人が自由に移動できる

社会の実現へ 渋谷 真子 …… 14

紀行 原稿 支笏湖 三代 達也 …… 15

減災《減災意識をたかめる》 …… 16

万華鏡53・災害支援金のお願い …… 17

組織部報告・編集後記 …… 18

毎日のアミノサポート週間で、
効果的にアミノ酸を補給、からだをしっかりとサポート

アミノサポート

体力回復

老化防止

栄養補給

皮膚組織の耐久性、身体機能、
免疫機能は着実にアップ!!

「アミノサポート」は、天然型アミノ酸を使用しており、必須アミノ酸の他、加齢とともに体内で作られる量が低下してしまう非必須アミノ酸、体調を整えるビタミン・ミネラルがバランスよく 26種類配合 されています。

9種類
必須アミノ酸
イソロイシン・ロイシン・
メチオニン など

3種類
非必須アミノ酸
アルギニン・
グルタミン・プロリン

11種類
ビタミン
ビタミンC・
B1・B2 など

3種類
ミネラル
カルシウム・
マグネシウム・鉄



冬のまとめ買い キャンペーン!!

対象期間 2023年12月15日(金) ▶
2024年1月31日(水)まで!!

注文数+おまけ	価格(税込)	セット1箱あたり(税込)
4箱+1箱	16,200円	4,050円 → 3,240円
8箱+2箱	31,320円	3,915円 → 3,132円
12箱+4箱	45,360円	3,780円 → 2,835円
24箱+8箱	88,560円	3,690円 → 2,767円
36箱+12箱	131,760円	3,660円 → 2,745円



わたくしは、医療従事者の観点から、アミノ酸をバランス良くスムーズに摂取できる『アミノサポート』をお勧めしております。



野呂田 秀夫

現メディカルクロッシングオフィス主宰
NPO法人格間メディカル協会会長



「アミノサポート」を飲み始めてから、疲労回復が早くなったので、気力がでて積極的に動けるようになりました。風邪もひきづらくなり、体調を崩すことが少なくなりました。



商品のお申し込み・お問い合わせはこちらまでご連絡ください。(WEBサイト・メールでも受付可能)

☎ 03-3377-2361

日本ヘルスケア株式会社
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-21-12

WEBサイト <https://www.jhckk.co.jp>

MAIL jhc@jhckk.co.jp

FAX 03-3377-2214

営業時間 月曜～金曜 9:00～17:30



第22回定時総会 福岡県大会
公開講演 I

地方組織どうしの意見交換会

- ① これからの支部の事業活動について
- ② 支部運営の財源をどうするか

その1 文責 広報部



進行 事務局長 安藤 信哉

進行 これからの各支部の事業活動についてということで、特に、今、何をやっているか、今後、何を重点的に取り組んでいくかについて、ご紹介いただければと思います。

それでは、初めに石川県支部の橋本事務局長、そして、田中支部長に口火を切っていただきたいと思います。

石川県支部の取り組み

橋本事務局長

石川県では何をやっているかということですが、基本的に春に総会の開催。春と秋に研修会、最後にその反省会。また、ITサポート研修会、福祉用具の研修会、ピアサポート研修会、4年に1回ですけれども、ブロック会議。そして、石川県ならではの、紙パンツやおむつの配布事業の委託事業。このような事業展開をしております。

私どもは結構、事業をやっていると思います。他の県ではいかがでしょうか。そのところを聞きたいと思います。

田中支部長

最近では、ユニバーサルツーリズムといまして、温泉ですけれども、バリアフリーにする温泉施設が多くなりました。石川県で、障害者の温泉事業というものが、本当に昔からやっておりました。和倉温泉に六翠苑がありまして、この施設ができたのが、昭和56年の国際障害者年のとき、障害者保養センターとしてつくった施設がありました。これは、県身連が運営をしていましたが、民間委託したほうがよかったのか、続かなくて、平成15年になくなりました。この後に、障害者温泉療養事業が開始されました。

この事業は、指定宿泊施設利用助成券の申請を行うことで、県から、3千円と私は金沢市ですので、市からは千円。これで4千円、今でいう旅行割りのようなもの。障害者手帳を所持していると、県内の温泉で20くらいの指定施設がありまして、そこで利用ができます。有名な和倉温泉の加賀屋なども利用できます。

指定施設になるためには、あまりハードルを高くすると手なくなるということで、温泉なのでそのことに規定をして、天然温泉ということが、まず一番です。沸かし湯では

困りますので、天然温泉であるということと、施設内がバリアフリーで全員が車いすで通れるようになってきていること。平面やスロープが付いているということです。そして、パブリックスペースに多目的トイレがあるということです。この3点の要件があれば、指定施設になれて、4千円の助成券を利用する人たちを受けいられるのです。

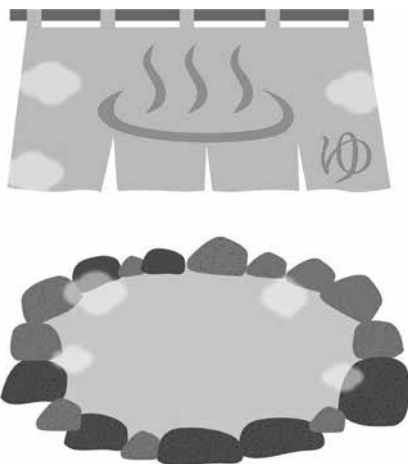
このような事業を長く続けていまして、県も長く支援してくれています。ただこれは、われわれだけのものではなく、われわれの先人が、取り組んできたものです。石川県支部ができて53年になるのですけれども、先人が作ってくれたものを続けているのです。事業を続けていくことで、会員獲得への取り組みにつなげていきたい。

他の支部もそうだと思うのですけれども、私が入会した頃は会員が、130人くらいいたときもあったのですけれども、それからだんだん少なくなって、今年の4月現在では43名まで減りました。それでも何とか事業も展開してやっております。

個人情報保護法ができてから、石川県のリハビリテーションセンター等もあるのですが、口が堅くなったというか、情報がなかなかわれわれに来なくなりました。何とかしなければと、思いつつも会員43人でやっているということです。

進行 ありがとうございます。石川県支部のお話を伺いました。

次に沖縄県支部の仲根さん。事業とか会員獲得への取り組みとか、支部でやっていることをご紹介いただきたいと思います。



沖縄県支部の取り組み

仲根支部長

NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会という法人のもう一つの顔をもって、運営をさせてもらっています。石川県と同様に、事業をいくつかしています。

一つは、障害者福祉サービス事業、就労継続支援A型・B型。もう一つは、委託事業で、沖縄県障害者ITサポートセンター。

先ほどの就労支援は、もう9年目になります。この障害者ITサポートセンターの県の受託は6年目に入るところです。それ以外にも、障害サービスに関する企画、研修の受託だったり、いくつか、そういう事業を補助、委託、広報みたいな形で、手をあげて積極的にやってきました。そうすることによって、財源の確保につながる。先ほどの障害者ITサポートセンターは、脊損に限らない、多様な、ALSの神経難病の人も含めて、最重度の人たちのIT支援という枠組みで支援をしておりますので、頸損の重い人たちも仲間として支援ができるという良さもあります。就労支援では、今年度は、会員のB型利用が6名になります。A型も1名おります。

これまでは、あまり会員の広がりにはなかったのですけれども、今年度から、会員に、きちんとした役割を与えられるような働き場、働くイコール活動。実は、ピアサポートとか、いろんな活動をすることが、結果として就労支援の枠組みに入るみたいな、そんな仕掛けをやりながら、会員にとってプラスになるようにしています。また、広報誌「しゃりん」も年6回発行し、交流活動とかもきちんとさせていただいております。

結果として、沖縄県はあまり、財源、会費に頼らないというやり方をしており、沖縄県は会費が月300円にしている、入ったものはそのまま本部につなげて、沖縄県支部として、運営しております。

事業化することによって、拡大していった。ただ、反面、合意形成で法人化することで、かしこまって、みんなの合意を取らないといけない。これはとても時間がかかったり、スピード感が弱くなったりとか、そういうとこ

ろの難しい面もありますが、いずれにしろ会員の交流機会や、負担感を軽減できるように努力していこうと思っています。ちなみに会員は、本部登録は約60名近い、ただ、沖縄県の方では、それ以外の会員を入れると、90名近くなります。その会員にしゃりんを発送しております。以上です。

進行 少し質問をさせていただきます。沖縄県から受託事業を委託されているということですが、どうやったら、そういうものを受けられるのでしょうか。

仲根支部長

もともと、10年ほど前に、全国で障害者ITサポートセンターというのが、27県くらいやっていて、沖縄県はやっていなかったのです。沖縄県支部としては、ITサポートセンターを沖縄県に持ってきて、より重度の人たちの支援を沖縄県でも環境整備をしたいという思いがあって、それをお願いしに県に行ったら、まず、法人でないとだめ、実績がないと受けることができないということでした。当時自分たちからやるということを考えてはなかったのです。

ところが実際その受け皿となる団体とか、仕切る期間があるかということ、一切ない。そういうことで、もう自分たちでこれをやろうという気持ちから、法人化して、それから実績を作るために就労支援事業を立ち上げたのです。

その実績を踏まえて、受託するという流れになっていたのです。何もない最初から受託するということは無理だったのです。もともとはITサポートセンターをやろうと思い始め、動いてきたという経緯だったのです。それをするには、2年といわれていましたが、実質的には3年かかりました。事業所を立ち上げて、実績を作ったということでした。この事業は今は、軌道に乗っています。

進行 ありがとうございます。この事業化ということでは、東京都支部でのそうめん販売活動があげられますね。

東京都支部の取り組み

三井支部長

自主財源確保のために、九州地区でやられている“島原手延べそうめん”の販売を、同じような方法で東京でもできないかということで、始めました。

実は、横浜にも製造元の営業所があるということですので、担当の方の方にアポを取ったところ、手取り足取りいろいろ教えてくれました。いち早く私どもの支部で導入することができました。

各支部の皆さんもそうだと思うのですけれども、会費以外に収入源がないというところで、活動資金が作れないという問題点を抱えているところが多くいらっしゃると思うのです。

こういう状況から脱却する手段の一つとして、販売活動を考えるのはどうか。財源の改善見込みができてきましたので、このような販売活動をやってみたらどうかと思います。

食べてみたらおいしかったです。

(続く)



投稿記事

車椅子電車評論家

アシトド氏の
フリートーク

滋賀県支部で元文化部・機関紙担当をしていたアシトド松井（ハンドルネームです）と申します。2021年12月から車椅子旅行記アシトドのブログをつくっています。アシトドのブログで検索して、メニュー画面に入ってくださいね。

アシトドで検索してね



車椅子電車評論家
アシトド松井

滋賀脊損でつくられたホームページ 旅しが Style も検索してね。

第17回目のテーマは社会実験「郡山城天守台 登城サポート」に参加して、前編です。

私は長年の城めぐりの功績により「電車評論家」ではなく「車椅子城郭評論家」として、奈良県大和郡山市歴史同好会から認められました。今回は報告形式でお楽しみください。

社会実験「郡山城天守台 登城サポート」に
参加して(前編)

(1) アシトドは市民団体から車椅子城郭評論家に認められました？

私は1994年に丸岡城を訪れて以来、北海道の五稜郭から沖縄の首里城まで、日本全国のお城（天守や櫓のない城跡も含む）をめぐってきました。2022年に奈良県の大和郡山城を近鉄電車で訪れ、急な坂や砂利に阻まれて天守台には近づけなかった、という記事をブログにあげたところ、大和郡山市歴史同好会会長様からメールをいただき、「郡山城天守台 登城サポート」という市主催の社会実験のご案内をいただくことになりました。

2022年のブログに掲載した車いすで行く大和郡山城の写真の一部（下の写真3枚参照）



郡山城の復元された櫓と城門



追手向櫓をバックに撮影



カフェから天守台をのぞむ

天守台のある本丸を目指すも最初のルートは急な坂道に阻まれ、もう一方のルートは再建された櫓・城門を間近で見学できたものの、砂利と階段のある橋に阻まれ本丸にはたどり着けず。堀越しに天守台が目える「番屋カフェ」（右写真）という所に車椅子・オストメイト対応フル規格トイレがあったので、少し豪華なランチにしました。（要



約)

という内容で2022年12月「アシトドのブログ」に公開しました。

(2) 大和郡山市主催・社会実験「郡山城天守台 登城サポート」の案内が届く

「アシトドのブログ」をご覧ください、次のようなメールをいただきました。

2022年5月、当会から市長に「郡山城天守台に車いすの人に登ってもらう日」をご提案させていただいたところ、この春3月18日、大和郡山市が主催者となり、社会実験「郡山城天守台 登城サポート」として実施していただけることになりました。この日は、仮設スロープを設置し、普段は階段でしか登ることができない郡山城天守台に、学生ボランティアさんや市役所職員のサポートで、車いすの方が登城していただけます。

テストランの行事なので、車いすの方20人まで、体重80kgまで、電動車いす不可など条件が厳しいのですが、もしよろしければご応募ください。

(私宛に届いた大和郡山歴史同好会・会長様からのメールを一部訂正の上掲載)

(写真右)「郡山城天守台 登城サポート2023年春」の案内ポスター



(写真下) 大和郡山歴史同好会・会長様からおくっていただいた、郡山城に車いす利用者を受け入れる準備のようすの写真。



車椅子城郭研究家の私のために（自己中心の勝手な思い込みで、そうじゃないだろう！）ここまで準備していただければ、もはや行かない理由はありません。さっそく奈良県・大和郡山市の市役所に電話連絡をしました。

(3) 大和郡山市の担当部署と交渉することに

体重80kgまで・電動車いす不可などの参加条件などについて確認すると、初めての社会実験なので「電動車いす利用者が単独で電車に乗って参加する」ことは想定しておられなかったこと。そこで

- ①大和郡山歴史同好会からご案内をうけていること
- ②私は車椅子での城めぐりの第一人者と推定（法律用語で反証があれば覆る）されること。
- ③天守台に上がれなくても城マニアだから、本丸に入れば「逆さ地蔵」（築城の際、石垣につかわれたお地蔵さま）ほかの見学で楽しめるので、危険と判断した行動はとらない。

などを「アシトドのブログ」を見てもらって説明。ぎりぎりの交渉？の結果、本丸前の急な坂道の手前で、市役所の職員さんに迎えにきてもらえることになりました。

(4) 京都から近鉄電車で奈良県の郡山駅に、そして郡山城に向かいます。

奈良市内の大和西大寺駅をこえて少し南下すると近鉄電車の郡山駅（上下線ともスロープ通路）に到着します。郡山城への道順・道路の状況は昨年訪れているので分かっているのですが、お城にゆくにはどうしても踏切を渡らなければなりません。



近年すっかり体力を落としてキャスター（前輪）を上げることが難しくなってきたのですが、そんなことをいっていたら車椅子での外出なんて出来ませんね。車椅子での街めぐりでなかなかの難所、前輪を溝に落とさないように慎重に通り抜けます。



昨年（2022年）に訪れたときに上るのをあきらめた、天守台への坂道の手前（写真左）に市の職員の方が介助のため待っていてくださいました。簡易電動の後ろを押してもらうので安全な介助です。

郡山城天守台への最後の坂が、地元の車いすユーザーと介助をして下さる関係者の方との集合場所になっていました。

社会実験「郡山城天守台 登城サポート」のご案内をいただいた、大和郡山市歴史同好会・会長様と記念撮影（写真右側）、車いすユーザーと介助スタッフが集まり次第、天守台へとむかいます。



（後編につづきます）

第18回目のテーマは社会実験「郡山城天守台 登城サポート」に参加して後編です。
奈良県の大和郡山市歴史同好会から「車椅子城郭評論家」として案内をうけた私は、市の関係者の方の介助を受け郡山城の頂上・天守台に向かいます。報告形式でお楽しみください。

社会実験「郡山城天守台 登城サポート」に参加して(後編)

前回のあらまし



「アシトドの城めぐりのブログ」をごらんになった大和郡山市歴史同好会様から案内をいただき、郡山城で行われた社会実験「郡山城天守台 登城サポート」に参加させてもらうことに。

天守台前の急な坂の手前の広場で同会会長様のお出迎えをうけ(左写真)、地元の車椅子ユーザー仲間や介助者がそろってから出発予定の時刻を待ちます。

(1) 出発の時間までは余裕があったので、再建された極楽橋を見にゆきます。

極楽橋は前編で紹介した櫓・城門そして番屋カフェのある場所と天守台方面を隔てる堀に再建された橋です。片側には階段があり、今回の「郡山城 登城サポート」のためにスロープを設置していただきました。

極楽橋の上で地元の歴史愛好家の方とお話することが出来たのですが、「再建するときにはスロープを付けるように」との指摘もあり賛否両論あったようです。



郡山城極楽橋のうえから、少しふくらみかけた桜がならぶ堀の石垣を背景に写真を撮ってもらいました(左側の写真)。

復興天守閣がそびえ観光地化してしまった城郭公園とは違い、古城の雰囲気があってこちらもいいですね。

参加者が少しずつ集まってこられました。出発準備をするまえに先ほど市の職員の方に押し上げてもらった急な坂道を登り切った場所に多目的トイレがあったので、入ってみました。



多目的トイレに入ってみると、車いす対応とオストメイトが排便・排尿をする姿勢に配慮したトイレが設置されていました。

後日

(ご質問) 車いす対応トイレの手すりの横に、小さな手洗いが設けられているのはなぜなのか。オストメイト関係の設備ではないか?との問い合わせがありました。(矢印の設備)

(私の回答) 車いす利用者が単独で便座に乗り移り用をたす際に手を汚した場合、一般の手洗いを利用するためには、車いすに乗り移るしかなく、歩行不能の場合は衣服を整える間に、汚れた手でさらに他の部分を汚してしまうことが考えられますので、設けられているのだと理解していました。

配管が細くて詰まるので、汚物を洗うためのオストメイト施設ではありません、と返信しました。車いすユーザーの読者の皆さん間違いないですか?



(2) 車いすユーザーと登城を介助して下さるスタッフが集合しました。



車いすユーザー仲間の皆さんと、天守台へ登るお手伝いをして下さるスタッフの方がそろいました。

私以外は全て手動車いすで、上肢の障害で自分で操作することが難しいのか、後輪の小さい介助用車いすで参加されている方もおられました。

(3) 車椅子の登場をサポートする方法

天守台の登城サポートは、計画段階で、車いす1台に4人が必要かと想定していた(実験の結果2人でいけることが分かったそうです)とのことで、準備は慎重にすすめられ、車いすの前方に人力で引き上げるためのハンドルを取り付け、後ろからも押し上げるという方法。

天守台のある場所までの坂道を、次々と登って行かれます。

簡易電動車椅子の私にも引き上げるためのロープを取り付けていただき登ろうとするのですが、電動で車輪が動くタイミングと介助の方が引っ張ろうとするタイミングがずれてしまい上手く進めません。



電動車椅子では牽引してもらうのは難しいと判断したので、ロープを外していただき後ろから押してもらうだけの介助で、郡山城天守台の真下にたどりつきました。天守台周辺の通路は平坦に整備されており車いすでも問題なくめぐることができました。

(4) 突然ですがここで車椅子城郭評論家・アシトド松井の城マニアック解説

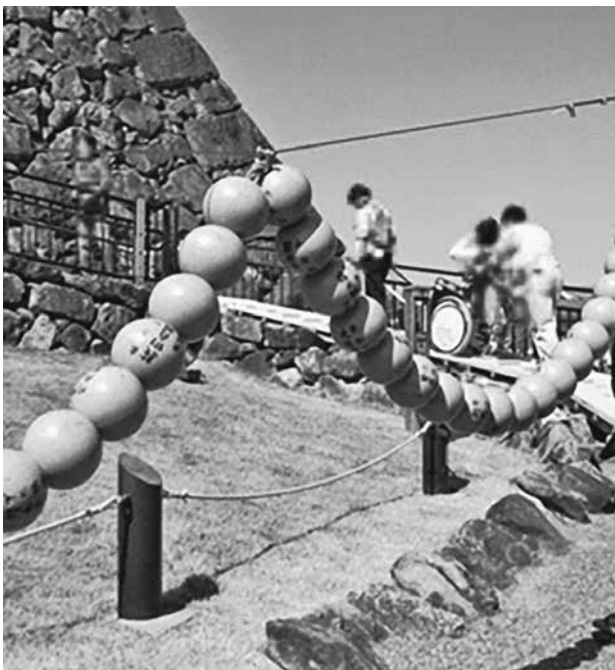


上の写真左①は今回、間近に見せてもらった郡山城天守台と周辺通路
上の写真右②は全面修理の際に訪れ、撮影した姫路城天守閣への通路（石段ではない）

世界遺産として有名な姫路城ですが、城内の全てが築城当時のまま全てが保存されているのではなく、多くの観光客が登りやすいようにできる範囲で安全な通路への改修がなされているようです。攻めにくいようにわざと幅がまちまちにつくられた彦根城石段の現状保存や、建築当時の姿に忠実に復元することを試みられている安土城などとは、城に求められている役割が異なるように感じています。

(5) 手動車椅子での参加者の方が天守台へ登って行かれます。

前を牽引、後ろから押すという介助方法で手動車いすユーザーの参加者が郡山城天守台に登って行かれます。



- ①設置していただいたスロープ通路が予想以上に急勾配であったこと、
- ②前を牽引してもらう介助方法が電動車椅子では難しいと感じたこと、
- ③天守台の石垣に使われた「逆さ地藏」を見学したかったこと、

そして万一転倒ということになったりして、この社会実験を妨げたくなかったので勧めていただいた天守台登城は辞退して「逆さ地藏」のある石垣側にむかいます。

なお天守台の周辺に写っている数珠は石垣に積み込まれた石仏・墓石などを供養する「数珠くり法要」のためのものだそうです。

(6) 逆さ地蔵について地元の方が解説してくださいました。



郡山城天守台石垣に積み込まれた「逆さ地蔵」の写真をとったのですが、車いすに座った姿勢では上手くいきませんでした。屈みこむと肉眼でよく見えました。現地案内表示とともにご紹介しますね。

地元のガイドの方が詳しく説明して下さいました。

(7) 天守台に登られていた車いすユーザーの皆さんが降りてこられました。



郡山城天守台をバックに記念撮影



天守台から参加者が降りてこられました

(8) 集合場所にもどり大和郡山市の歴史や観光について説明をうけました。

集合場所に戻ってくると、地面に埋め込まれた郡山城絵図を囲んで、市の学芸員と思われる方が奈良県の史跡について説明してくださいました。



奈良大仏・西ノ京と法隆寺に挟まれた大和郡山市は奈良観光という面からは不利な位置にあるようで、豊富な歴史資源の割に苦戦されているようでした。

今回ご案内いただいた大和郡山市歴史同好会様では、大和郡山市の補助金により「大和郡山バリアフリー観光マップ」を発行されているとのこと。観光案内などいろいろいただきました。歴史研究の市民団体の方が車いすでの観光に関心を持ってくださっていることを嬉しく思いました。近鉄郡山駅（上下線スロープ）から電車に乗って大和郡山市を後にしました。

城マニアの私としては、築城の際、石垣に使われた石仏・五輪塔など転用石の話なども載せたかったのですが、それでは「脊損ニュースの記事」になりませんので、このあたりで。

次回はもう少し一般的な話題にするよう心がけますので今回はご容赦くださいね。

第7回『続・世界は開いているから仕方がない』^シ^ン^せ^が^い^ひ^ら^し^が^た^む^ら^や^ま^て^つ^や^哲^也



社会的弱者も支援を受けて生きてよい 立岩真也先生のこと

この連載、送付される2か月ほどまえに原稿を事務所に送付しています。この10月号を書いている8月、突然立岩真也さん（社会学者/立命館大学教授）の訃報が飛び込んできました。62歳です。とても悔しい！！

2014年夏に事故にあい障害を得るまで、私は立岩さんのことを知らないままでした。健常者世界から突然障害者世界にやってきた私は、リハビリテーションの日々を過ごしているベッドの上で、障害関係の本を読み漁った。そうすれば、どうしたって立岩先生の著作に巡り合うのです。彼は、21世紀の障害者世界に強い影響を与えてきた人だったのです。どうしたって巡り合ってしまうのです。

彼は学者ですから、当然、研究が仕事です。その研究を通して、彼は「**社会的弱者も生きればよい。周りはそれをサポートすればよい。サポートする資源はこの社会には十分にある**」ということを明らかにしていったのです。つまり、世間で良く言われる「**少子化により（老人を含む）弱者支援の福祉に予算を割くことは難しい**」という言説は、嘘だ！ということを暴いた。

けれども、どの業界もそうですけれど、最先端の研究というのは簡単に世間に広まるモノではありません。だいたい最先端の研究というのは難しいのが相場です。専門家のあいだでは流通しても、なかなか一般人の口の端に上ることはない。ですから、これを読んでいる方々の中にも立岩さんをご存知ない方がきつといるでしょう。

障害者世界の新参者だった私にとっても、立岩先生の研究をその真髓まで理解できたわけではありません。彼の著作を知ってもうすぐ10年経つわけですけれど、今になっても彼の主張を自分の口で説明するのは簡単でない。

でも、彼の「**弱者も淡々と生きればよい、必要な支援は社会が肅々と提供すればよい**」というメッセージは、障害者になった私を猛烈に勇気づけてくれたのです。ですから、立

岩さんは私にとって“先生”なのです。彼から学んだことは本当に大きかった。

私自身は立岩先生にお会いしたことは一度もありません。インターネットでのセミナーなどで彼の姿・話しぶりに接したことはあります。とても誠実な方であることはそれでもわかる。また、障害者世界に入って知り合った方々の中には、立岩先生の直系のお弟子さんもおられます。彼らからも先生のお話はよく聞いていました。

立岩先生ご自身には特に障害というものはない。健常者世界の人でした。けれども、彼の研究室には重度障害のある方から障害者支援に携わる健常者まで、幅広い分野から学徒が集まっていた。ご自身の研究に加えて、数多くの研究者・先駆的当事者・支援者、つまり「社会的弱者の味方」を世に出してくれたこと、それも立岩先生の大きな成果だったのです。彼の死は、辛い。でも人は必ずいつかは死ぬ。立岩先生、本当にありがとう。

以下、読みやすい順に代表的な著作をご紹介します。（図書館では出版社の違う古い版が見つかることもあるかもしれませんが、もちろん、古い版でも問題なしです）

『人間の条件 そんなものない増補版』

（新曜社2018）

『介助の仕事 街で暮らす／を支える』

（筑摩書房2021）

『良い死／唯の生』

（筑摩書房2022）

『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学 第3版』

（生活書院2017 共著）

『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術 増補新版』

（青土社2019）

『私的所有論 第2版』

（生活書院2013）



秋桜

（コスモス）

連載

すべての人が自由に移動できる 社会の実現へ

渋谷 真子



トヨタ・モビリティ基金をご存知ですか？

「より豊かでサステナブルな未来社会の実現に向けて、イノベーティブな技術、仕組みづくりにチャレンジし、移動の楽しさを追求」する活動などを行っています。私は昨年、この基金が行うコンテストに参加した企業さんとのお仕事で、初めて存在を知りました。そして今年はコンテストの選考委員として選んでいただき、9月2、3日に行われた耐久レースin茂木にて色んな分野の新しい挑戦を体験したり、見たりしてきました。

モビリティ基金では国内で行われるスーパー耐久レースの会場で、実証実験を行います。視覚、聴覚、麻痺障害がある人たちが多く参加し、それぞれ自分の障害に対しての新しいアイテムを体験して「良かった、悪かった、改善ポイント」などを開発者に伝えることができる場となっています。開発者の人たちも視覚障害と一括りにすることなく、様々な状態の人から意見をもらえる場となっているので、より良い開発ができます。

私が体験した一社でとても驚いたのが、TOYOTA自動車が開発中の遠隔で車が操作できるシステムです。リアルラジコンと言えいいでしょうか。シュミレーターでやっている操作で実際の車を走らせることができます。携帯の電波を利用しているので現時点でも操作は近距離でなくとも、北海道で操作して沖縄にある車を動かせる技術はあるそうです。健常者の場合はゲームセンターのようなシートに座ってハンドルを操作する事で、実際に感じる振動やハンドルへの重みを感じる事ができます。

私は障害がある人でも運転できるように試行錯誤しているレバーで運転にチャレンジしました。ハンドル操作がいつもとは勝手が違う分、難しかったです。それでも画面上で操作している車が、目の前を走っていくのは不思議な感覚でした。(私のInstagramとFacebookに操作の動画を投稿してあります。トヨタタイムズでも今後配信があると思うので確認してみてください。)

日本の交通ルールのにはまだまだ実現するのは難しいですが、遠隔操作ができる事でタクシーを運転手の確保であったり、移動困難者のサポートができる可能性。自動運転の技術向上などを目指しているそうです。毎年1回、茂木や岡山などのサーキット会場で行っているの、機会があれば行ってみてください。



紀行 原稿

支 笏 湖

三代 達也
みよ たつや



今回は、7月に訪れた夏の北海道について書きたいと思います。

冬の北海道は何度か訪問していますが、夏の北海道は私自身初めての経験で、どういう風楽しめるのかワクワクしていました。

舞台は千歳市、有名な観光地は支笏湖です。冬は氷濤（ひょうとう）祭りがとても有名な場所です。

支笏湖の特徴は水が澄み切っていて、濁りがなく、純度が高いことで有名です。

海水浴ならぬ湖水浴を楽しんでいる人もたくさんいました。

夏はなんといっても支笏湖を目の前に大自然を感じられるキャンプとアクティビティが最高です！

今回は千歳市内でガイドをされている“かのあ”さんと、カナディアンカヌーという横幅が広いタイプのカヌーに乗る体験に挑戦し

ました。車椅子を“よいしょ”と持ち上げてそのまま乗船し、四肢麻痺の私でも十分に満喫できたことに感動しました。

北海道といえば“食”も観光の推しの一つです。特に支笏湖で有名なのはチップ料理。

チップとはヒメマスのことです。見た目はシャケですが、海に流されずに湖だけで育った魚です。澄み切った水と動物プランクトンのみで育っていて、臭みがなく、味わいもすっきり雑味がなく大変に美味しいです。刺身、お寿司以外にも、マリネや塩焼きやフライなどを一気に楽しめる場所です。

支笏湖の目の前にあるポロピナイ食堂という場所がおすすめで、入り口にスロープ、バリアフリートイレがあり、テーブル席も完備。テラスにもスロープがあり、車椅子フレンドリーとなっています。

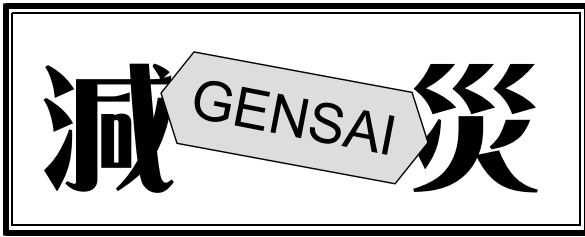


支笏湖でのカヌー体験



チップ（ヒメマス）料理

夏の支笏湖は、キャンプ・景観・食を楽しむアウトドアスポットとして非常にお勧めしたいです！ちなみに冬の氷濤まつりは雪の上を歩くのでバリアフリー度でいえば、なかなかレベルが高いですが、我こそは挑戦者！という方は是非お試しあれ。



《減災意識をたかめる》

命守るための備えは

関東大震災100年

防災用品10種類紹介

100年前の9月、東京や神奈川などで10万人以上が犠牲になった大災害。もしこのような災害が、1人にいるときに起きたら—。自分の命を守るためにどう備えたら良いのかを考えます。

■心構えは

「津波てんでんこ」という言葉を知っているか？ 東北の三陸地方の言い伝えで、「津波のときは人にかまわず、てんでばらばらでにげろ」という意味。まず自分で自分の命を守るという考え方で、さまざまな災害に通じる心構えです。

1人で家にいるとき、災害が起きたらどうなるだろうか。家族に連絡が取れず、すぐ帰ってこないかもしれない。家具がたおれたり、ドアが開かなくなったりして、閉じ込められることもある。

逆に、1人で出かけていて家から遠い所で災害にあったら、もっと大変かもしれない。どこかに避難できても、大勢の人で混乱していて水や食べ物、毛布などがもらえないことだってありえる。

こういったとき、自分の身を守るにはどんな備えがあればよいだろうか。「生きぬくためにこれだけは必要」と思う防災用品10種類を以下で紹介する。自宅にあるものでもいいし、どれも100円ショップでも買える。いつもかばんなどに入れて持ち歩こう。備えよう、常に！

■持ち歩く

持ち歩きが必要な防災用品として、まず挙げたいのは非常用ホイッスル（笛）。けがしたり、閉じこめられたりしたとき、音がよく

ひびくので気付いてもらいやすい。

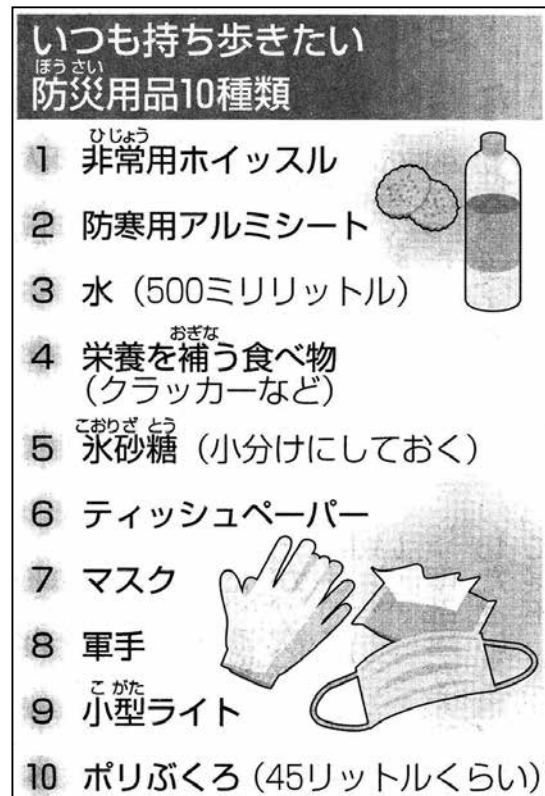
笛の中に丸めてカードを入れられるタイプがおすすめ。カードに名前や住所、血液型、病気やアレルギーを書いておくと、手当てを受けやすい。ふだん首に下げておけば、防犯にも使える。

次はアルミの防寒シート。寒さで体の熱がうばわれる「低体温症」になると、命に関わる場合がある。室内でもぬれた服を着続けたり、体の冷える場所に長い時間いたりすると危ない。防寒シートにくるまれば、体温がにげにくく、雨風からも体を守れる。

水分と栄養を取れる備えも大切。いつも水筒（なければペットボトル）を持ち歩こう。さっと栄養を取るには氷砂糖が便利。のどや口がうるおい、つかれや不安をやわらげるのにもいい。クラッカーなど、栄養を補う食べ物も用意しよう。ふだん飲む薬も持っておくと安心だ。

外を移動するときはマスクと軍手を着け、こわれたガラスや道路などでけがしないよう注意する。

ただし暗い時間に動き回ってはいけない。雨のときは、大きなポリぶくろに穴を開けて首と両手を出してかぶれば、雨具になる。小型ライトは避難所や家が停電したとき、手元を照らすのに便利だ。



万華鏡 53 酒と女と国政と②

千葉県支部 出口 臥龍

週刊文春といえば、ちょっとした思い出がある。20代後半、私は地方新聞の記者をやっていた。ある時、外線から電話が入り「週刊文春編集部のものですが、お会いしたい」という申し出があった。「なんでまた、こんな田舎新聞に」と訝ったが、翌日40代半ばくらいの人が訪ねてきた。「田中角栄の金脈事件を追っているんですが、協力してくれませんか」という依頼だった。「角栄とある代議士が組んで、土地コロガシをやっているんですよ。そのウラを取ってほしいんです。」報酬は1件につき1万円だった。月給が14、5万のころの1万円だから、これは大きい◆週刊誌にも興味があったから、色々質問してみた。週刊誌の出版社は東京だけが地方のネタとなると新聞社には敵わない。そこで、新聞記者に協力者を募る。編集部が2チームあって、1週おきに紙面を作る。編集記者はデータマンといって細部の取材をやる。それをアンカーマンが記事にまとめる。田中金脈事件は、後に評論家となった立花隆さんが担当だった。「よく、地元記者によると…という記述があるでしょう。地元情報に詳しい地方新聞の協力は大きいんですよ」とこの人は苦笑いした。それから毎週のように週刊文集が送られてくるようになった。そんなことが10年以上も続いた。(続)

災害支援金への募金のお願い

近年、多様な自然災害が全国各地で多発しています。そのような事案に遭遇した全脊連会員へ生活支援等に即応すべく支援金の存在は心強いものです。その準備のために平時から募金活動を継続したいと思います。厳正に別会計として管理し公開してまいります。皆様からのご協力を心よりお願い申し上げます。

大規模災害発生時には、従来からの特定募金を実施したいと思います。

日頃より、防災意識の向上に心がけましょう。

〔記〕

【お振込先】

郵便振替……………00110-2-170076

加入者名……公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 宛へ

※ 通信欄に「災害支援金」とご記載ください。

組織部報告10月

●新入会員

千葉県支部 崎村正信
岐阜県支部 一本木一裕
岐阜県支部 西浦桂子

●死亡退会

謹んでお悔やみ申し上げます

東京都支部 仲倉重郎様
神奈川県支部 増川礼子様

<編集後記>

2020年から往来ができなくなり！ その年からWEBでの全国総会が3年。

北海道東北ブロック会議も2019年全国総会を山形県で実施したことで中止。

ようやく9月9日～10日、4年ぶりに会議とイベントを実施することができました。

併せて夜には『山形県支部設立50周年』と『バリアフリー・ユニバーサルデザイン奨励賞』受賞記念式典・祝賀会を行い、ブロック会イベントに参加した大濱代表理事、安藤事務局長やブロック内役員・会員はもちろん、行政や国会議員の先生方、障害者団体の代表、PT、OT、SW等関係団体長等、60名超の方々に出席頂き盛会裏に修了できました。

その祝賀会最後の挨拶概要を記載します。

「この50年は障害者、特にわれわれ車椅子利用者にとって、社会参加とバリアフリー・ユニバーサルデザインとの戦いの50年だったと思います。50年前のバリアフリーと今のバリアフリーでは雲泥の差があります。

ホテルのバリアフリールームしかり、高速道路の割引やトイレしかり、われわれ山形

県支部で行っている全面青色活動しかり、数え上げればきりが無いほど車椅子利用者が社会参加し易い環境は大変良くなりました。

それは、山形県支部はもちろんの事、ブロック会、連合会本部の先輩たちが本当に努力され、又多くの関係団体や障害者団体の理解と協力があったからであります。

昨年の『バリアフリー・ユニバーサルデザイン奨励賞』を首相官邸で受賞出来たことも、今後の支部活動に対する大きな励みになりました。

又、今日の式典・祝賀会にこのように多くの方々にご出席頂いたことも、次の50年に向けて大変大きな励みになりました。

今後共、山形県支部はもちろんの事、障害者への理解と社会参加できる環境が今以上に進むことを、皆さんと一緒に活動することを願います」で締めました。

まだまだ全脊連、各支部の存在を知らない人が多くいるので、企画実行まで大変ではありますが、全脊連の存在を知らしめるイベント等を行う事が極めて重要と思います。

(光)



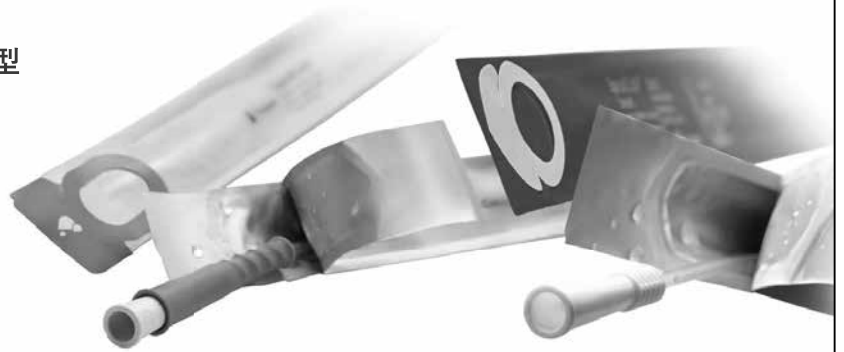


**経肛門的洗腸療法は
保険診療で認められている治療法です。**

経肛門的洗腸療法とは、1～2日に1回、
直腸と左側結腸の便を洗い流すことにより
便失禁や便秘症状を改善する治療法です。

**親水性コーティング付き使い捨て型
自己導尿カテーテルは、
医療機関からより処方されやすく
保険改定されました。**

潤滑ゼリーや保存液が不要で、
開封してすぐに使うことができます。



経肛門的洗腸療法による排便管理 親水性コーティングカテーテルによる導尿管理

ご興味のある方は、ぜひかかりつけの医療機関にお問い合わせください。
経肛門的洗腸療法の実施医療機関については、コロプラスト株式会社ホームページの
「経肛門的洗腸療法の実施施設一覧」をご確認ください。

コロプラスト株式会社 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30 イタリア文化会館ビル11F
www.coloplast.co.jp ☎0120-664-469

©2021-05 無断複写・転載を禁じます。

The Coloplast logo is a registered trademark of Coloplast A/S.



アイのある技術で、ユニバーサル社会に貢献します。

ニッサン自動車工業は2016年4月より、
”株式会社ミクニ ライフ&オート”と社名を変更し、新たなスタートを切りました。



Happy car life



車いすを屋根上へ収納

車いす収納装置

オートボックス



車いすに乗ったまま
スムーズ乗降

リモコン式

乗降用リフト



手でアクセル&ブレーキ

手動運転装置

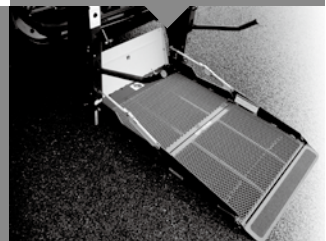
APドライブ



車いすの積み降ろしを
サポート

車いす収納装置

ウィンチェア



福祉車両総合メーカー



株式会社 **ミクニライフ&オート**

〒349-1145 埼玉県加須市間口456-1
TEL.0480-72-7221
FAX.0480-72-7223
<http://www.nissin-apd.co.jp/>

編集人 東京都目黒区緑が丘2-15-11
（公社）全国脊髄損傷者連合会 村上ビル10214
発行人 ヴァエルドゥラ祖師谷3-1-11号室17
障害者団体定期刊物物協会

印刷・製本 領価五〇〇円
コロニー印刷